高齢者サービス・介護保険に関する大学生ヒアリング（概要）

資　料　1
令和５年11月２日
介護保険運営協議会

1　目的

今後、西東京市では、85歳以上人口が急増し、要介護認定者が増加するとともに、生産年齢人口の減少が見込まれています。

一方で、平均寿命が伸び続ける中で、高齢者自身の健康水準が向上し、支えることができる高齢者も増えています。

こうした状況を踏まえ、人と人、人と地域資源が世代や分野を超えてつながる地域共生社会の実現が求められています。

高齢者福祉に関して、多世代の意見を聴き、施策に反映させることは、世代を超えたつながりを作るきっかけとなることから、新たなアプローチによる意見聴取を実施するものです。

◆会場の様子

2　調査概要

日　時	令和5年7月28日(金)13:10～14:40
場　所	武蔵野大学　武蔵野キャンパス　7号棟
対象者	武蔵野大学人間科学部社会福祉学科　熊田ゼミの学生 （3年生・4年生）17人
話し合ったテーマ	①地域の高齢者と一緒にできること（多世代交流など） ②在宅介護についての考え（8050、ダブルケア、家族介護者への支援について） ③どのような福祉専門職に就きたいか、福祉専門職の魅力を伝えるために必要なことは ④高齢者にとって、まちにあるとよいもの（まちづくり、ユニバーサルデザインなど）
方　法	3グループに分かれ、2テーマずつグループワーク形式で実施 ・Aグループ：3年生6人、テーマ①・② ・Bグループ：3年生5人、テーマ②・④ ・Cグループ：4年生6人・市長、テーマ③・④ 意見や話合いはKJ法（ポストイットを使った取りまとめ法）によりまとめ、最後にグループごとに話合いの結果を発表
進行の流れ	・市長挨拶 ・資料説明 ・グループごとの話合い（2テーマ） ・グループ結果発表 ・熊田先生の講評 ・市長挨拶
配布資料	・　次第 ・　西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第9期）の策定に向けて　西東京市の超高齢社会⇒2040年の未来～一緒に考えましょう！ With Life ～ ・　アンケート用紙

3　話し合いのテーマごとのまとめ

テーマ①
地域の高齢者と
一緒にできること
（多世代交流など）

イチ押しは、多様な世代を巻き込んだゲーム大会の開催です。一緒に楽しむことで盛り上がり、多世代の交流が図られると、いう話をしました。

Aグループ

◆レクリエーション等の交流
- **一緒にボードゲームなどをして関わりをもつ**
- **eスポーツを活用して多世代を巻き込んだゲーム大会の開催**

イチ押し

- スポーツなどのゲームのたのしさにはまる
- コミュニティセンターや公民館等を利用したイベントを用いての多世代交流
- 昔遊びを通した世代の交流
- スポーツや手話など
- マルシェ・直売所など

◆運動、介護予防・フレイル予防
- フレイル予防として地域の公園で体操や軽い運動を行う会を定期開催する
- スポーツを通した関わりを作る（介護予防を含む）

◆支え合い
- 地域（町内）のごみ拾い
- 地域内行事への参加（お祭りなど）
- 地域が主体でイベント（レクリエーション）を開く
- 地域のボランティアへの参加の促進
- 地域イベントで多世代の交流祭りなど
- 買い物支援

◆子どもの見守り、学習支援等
- 小中学校の登校支援
- 放課後の児童見守り運動
- 公民館などでの学習支援
- 学校の発表会を保護者だけではなく地域の人も参加できるようにする
- 学校内のクラブ活動で高齢の方が講師になる

◆防災活動
- 地域での防災訓練
- 避難所運営など
- 多世代でハザードマップ作り　　など

テーマ②
在宅介護についての考え(8050、ダブルケア、家族介護者の支援)

介護者支援について、たくさん話をしました。サービスをうまく利用できないことや孤立化を防ぐために必要なことを話し合いました。

Aグループ

◆高齢者がいる家へ　アウトリーチを積極的に行う！

◆介護保険制度の啓発
・制度の認知が不足している
・制度の複雑さ(どこに何を出せばいいのか、相談先がわからない)
・介護に関する負担を減らせる仕組みになったらよい
・在宅で多くのサービスにアクセスできる選択肢があれば安心につながる

◆孤立化を防ぎ、交流を促す
・介護者の孤立化→社会的孤立
・介護の際に同じ場所で日中に活動できる場所(デイサービスのようなもの)
・介護者同士の話し合いの場をつくる
・介護者が集まって悩みを言い合う場をつくる
・介護する上での悩みやつらいことを共有し、話し合うことができる場をつくる
・ヤングケアラーに対する、学校側の機関との連携強化

◆尊厳を大切に！
・8050へは、無理に福祉サービスを提供しない
・本人・家族の意向を尊重し、できないことを手助けしていく
・できないことではなく、「できること」に目を向ける
・認知症など正しい医療の知識を提供する

◆時間とお金
・介護費用の問題
・保障や手当が出ていても収入が年金のみだと厳しい
・在宅支援を満足に行う環境を整えるまでの時間(コスト)の高さ

◆資源・福祉用具
・在宅介護をするうえで便利な福祉の道具を、介護者、多様な人と共同で開発
・デイサービス・訪問看護など、使える資源を有効活用！　など

テーマ②
在宅介護についての考え(8050、ダブルケア、家族介護者の支援)

介護の問題を話し合い、そのあと地域包括支援センターの知名度を上げるには？ということも話し合いました。

Bグループ

グループでの話し合いと発表の様子

◆生活と仕事の問題
- ・ストレスがたまる　・親をみているだけでも大変そう
- ・家族だけの介護では限界がある
- ・要介護者が1人だけではなく2人になる場合も
- ・介護認定とそれだけではわからないグレーゾーン
- ・家族の意向と本人の意向の違い
- ・親の高齢化に伴い、家庭によってはリフォームが必要
- ・自分の時間が限られる、介護者自身の時間がとれない
- ・自宅での介護を働きながらできるのか？
- ・仕事復帰が難しい、離職せざるを得ない
- ・介護休業をとっている人が少ない(特に民間企業)
- ・介護にかかる費用が多い、物価上昇に伴う介護費の不安

◆8050問題
- ・責任感から周りに頼れない　・自助、家族だけで介護

◆相談相手、相談先の問題
- ・介護者は1人で抱え込んでしまう
- ・介護について話す相手が身近にいない
- ・相談先に行くことにもハードルがある

◆情報、知識の問題
- ・介護施設などの知名度が低い
- ・親が認知症になったらどうすればよいかわからない

〇必要な支援
- ・介護者の事情も反映したサービス
- ・介護休業がとりやすくなる
- ・介護者も含めた在宅介護への支援(見回りなど)
- ・介護が最低限ですむような健康づくり
- ・介護について気軽に相談できる機関がほしい

〇地域包括支援センターの知名度を上げるには
- ・SNSを利用した認知度向上への工夫
- ・相談先が来てくれるサービス
- ・地域の新聞、回覧板、ポスター・掲示板
- ・YouTubeのshorts(ショート)などを利用する
- ・電車のモニターでも宣伝する
- ・バスのチラシ
- ・学校(大学以外)で教える
- ・アナウンス(バス)でも宣伝する

テーマ③
どのような福祉専門職に就きたいか、福祉専門職の魅力を伝えるために必要なことは

まずは専門職としてのやりがいが大切！という話になりました。また、福祉イコール介護のイメージよりも、福祉の深さや意義を知ってもらうことが大切との話にもなりました。

Cグループ

○どのような福祉専門職に就きたいか

◆自身が求めている「やりがい」を達成できる専門職
◆地域に貢献できる専門職
◆地域福祉の専門職
- 地域福祉コーディネーター
- 生活支援コーディネーター
- 市町村社会福祉協議会

◆高齢・障害・児童分野、それぞれの専門職

○福祉専門職の魅力を伝えるために必要なこと

◆多くの人に福祉を考えてもらう
- 自分事として考える機会を作る
- 当事者視点（本人・家族）
- 人生において「福祉」を意識する場を作る
- 社会問題をより具体性を持って認識する

◆職の深さ・意義を知ってもらう
- 福祉の知名度を上げていく
- 実際の仕事内容を理解してもらう（福祉と善意の意味）
- 福祉の仕事イコール介護の仕事のイメージ
- 介護だけじゃないことを知ってもらう

◆福祉の仕事を周知する
- 地域の人達と関わりを持ち、関係性を築く
- 利用者の方々に実際に接してもらう

テーマ④
高齢者にとって、まちにあるとよいもの(まちづくり、ユニバーサルデザインなど)

外に出たくなるようなイベントが地域にあるといいのかなと思いました。まちのハード面では交通面での配慮が大切。その他もたくさんの話が出ました。

Bグループ

◆こんな場所がほしい
- 気軽に立ち寄れて休める居場所
- お茶が飲めるカフェ
- 高齢者も若い世代も入れるおしゃれなカフェ
- 地域に密着したカフェ
- 高齢者の熱中症対策
- 暑さを感じたとき入れる場所
- 一人で過ごせる、話もできる場所
- おいしくて安いご飯屋さん
- お散歩コースや健康遊具
- 商店街
- 公民館
- スポーツ施設

◆こんなイベントがほしい
- 公民館での交流イベント
- お祭り
- 高齢者の路上ライブ
- フリーマーケット
- マルシェ
- 移動販売車

◆こんな働く場所が欲しい
- 高齢者でも働ける場所
- 同世代と働ける場所
- 駅前の駐輪場　・オシャレなカフェ
- マンションの管理人
- 自転車整備など

◆こんなサービスが欲しい
- 市の実施する高齢者向け情報共有アプリ
- 高齢者向けSNS
- 市からの情報を受け取れる端末
- スーパーの配達サービス
- 電話でチラシから注文
- 困ったらすぐ来てくれるヘルパー
- 見守り対策(孤独死対策)
- 全自動介護ロボ(AIを使った会話など)

◆介護者向け
- 介護者へのケア　・介護者用のグッズ

◆まちのハード面
- シルバーカーが通りやすい道
- エレベーター　・ガードレール
- ウォーキングロード
- 地下道などの地下空間を分離する
- 高齢者専用レーン(歩道・車道)
- 歩者分離　・福祉施設の前にバスが止まる
- 交通手段充実　・大きな文字の看板や広告
- 信号が変わるのが早い

テーマ④
高齢者にとって、まちにあるとよいもの（まちづくり、ユニバーサルデザインなど）

フレイル予防、世代間交流・居場所、移動支援、つながりを強化するような支援が必要だなという話が出ました。そのための地域の情報提供・発信が必要です。

Cグループ

◆周知のための市のイベント

◆世代間交流・居場所

・世代の違う人同士が自由に交流できる場所（サロンなど）
・気軽に交流ができる場所、休憩所
・福祉情報が受け取れるサロン等を作る（地域の情報も）
・児童館等活躍でき、必要とされる場所
・大学などの施設の公共機関　・「縁側プロジェクト」の周知

◆フレイル予防

・入所していなくても利用できる介護施設
・軽度の運動ができる施設
・歩くことが推奨されている公園を作る（休憩所があるとよい）
・運動ができ、集える場所と送迎バス

◆移動支援

・乗り降りしやすい移動支援
・買い物難民→目的にあった移動手段
・道の整備→ガタガタな道や狭い道
・病院と薬局、移動手段としてバスがあるとよい
・案内表示

◆生活支援

・「日傘貸出サービス」
・みんなが使えるカート
・買い物の荷物を運んでくれる
・普段の買い物以上の品を買えるタイミングを作る

◆つながり

・防災訓練シミュレーション（必要なことを知る）
・見守りサービス

4 総括

熊田先生から

- ここで学生の皆さんが出してくれた意見は、高齢者の計画だけなく、他の計画との連携が必要なものが多かったと思います。特に、世代間交流、居場所、移動支援、フレイル予防などは、地域福祉計画との連動が改めて重要なことだと感じました。
- また、大学として何ができるかというところです。大学は出入りが自由ですが、地域の社会資源なので、どのように活用できるのかというところがポイントです。何と言っても大学の一番の魅力は、若い学生がいるということになると思うので、どのように地域に貢献できるのか、無理のない形で学生がどのように関わっていくのかということを考え、市と連携しながら進めていく必要があるかと思います。
- 今回の取組を一つのきっかけにして、少しずつ輪が広がっていくといいなと思いました。

グループワークを見守る熊田先生

池澤市長から

- 3年前、コロナがはじまった頃、西東京市に「福祉丸ごと相談窓口」を立ち上げました。これによって、縦割りでなく複合的な相談に対応できるような仕組みができました。今日いただいたご意見からも、時代のニーズに合わせて変えていくということが大切だと思いましたので、意見を次の計画に反映させ、高齢者が過ごしやすい、暮らしやすいまちを作っていけたらと思っています。

- 印象に残ったのは情報発信の仕方です。SNSを活用している高齢者の方も増えているので、さまざまな媒体で情報発信して、必要な時に必要な情報を得られることが大切だと思います。

池澤市長の挨拶

終了後アンケートのご紹介

◆福祉や福祉計画には、情報の提供、情報発信が大切であること

- 真に必要な情報が生活するだけで受け取れるということが大切である。（4年生）
- 文字や名称、デザインによって印象が変わるため、公的なものほど、地域になじむ形にした方がよい。（4年生）
- 今回のグループワークから計画を策定する際に話し合うことが大切であることを学んだ。市の活動を、地域に広めていく方法を考えることが必要である。（3年生）
- 高齢者支援関係者や介護者だけではなく、関心のない人にも情報を届け、地域全体で地域をよくすることができたらとても良いと思う。そのために私もがんばりたい。（3年生）
- 情報発信の仕組みが充実することで解決・改善が見込める課題が多く存在すると思うので、SNSや市報などを積極的に活用していくべきと思った。（3年生）

◆大学と地域との交流が大切

- 「自分事」として、福祉を考えることは厳しいので、教育の段階で必然的に学んでいく方がよい。大学の演習・ゼミを活用していただき、交流の場を作ってほしい。（4年生）

◆地域のつながり、交流について

- どんな関係性においてもコミュニケーションを取ることや地域の中で孤立する人が減るような取組を行うことが必要となる。（3年生）
- 高齢者福祉の分野だが、若い人など多世代交流をすることが住みやすいまちづくりにつながると感じた。高齢の方に限らず多くの人が地域で住み続けられるように、多くの意見を集めることが必要である。（3年生）
- 学生も交えた地域を知る活動ができたらよい。（4年生）

終了後アンケートのご紹介

◆介護者支援に関する意見

・ 介護者に対する支援の重要性を考えることができた。多くの選択肢を持ち、利用者にとって最適な支援を提供していくことが大切である。（3年生）

◆まちづくりに関する意見

・ 地域に生きがいとなる場（スポーツ施設、地域に密着したカフェ、公園）が充実していることで高齢者が住みやすくなるのではないかと思う。（3年生）
・ 地域のラジオ体操に参加すると、野菜や健康グッズがもらえる企画をしたら、参加者が増えるのではないかと思う。（3年生）

◆防災に関する意見

・ 防災に関しては、互助や共助が強調されていると感じる。実際の有事で助け合える関係性が作られているのか疑問に思ったことがある。（4年生）
・ 高齢者は避難所に行けるのか、避難所の場所を知っているのか。住民同士でシミュレーションをして、必要なことを話し合える機会があればよい。（4年生）

◆新たな気づきがあった、参加できてよかった

・ 自分の価値観などの見直しや新たな気づきがあった。（4年生）
・ 自分の経験が、今日の材料となって、とても良かった。自分も地域に貢献できている気がして、うれしく、より自分事として捉えることができた。市長さんとお話しできる機会もあってよかった。（4年生）
・ 今回をきっかけに自分の住む地域では、どのような施策が行われているのか興味を持った。自分の住む地域を見つめ直すよい機会にしようと思う。（3年生）
・ 若者目線から、高齢者の問題を考えることも大切だし、自分が高齢者になったらと自分事として考えることも大切だと感じた。（3年生）